

第2回 むらづくり推進委員会議事録

1 日時 令和8年1月15日 13時30分

2 場所 東成瀬村防災情報センター301、302 会議室

3 出席者

(1) 東成瀬村むらづくり推進委員 17名(欠席2名)

- ・東成瀬村商工会長
- ・東成瀬村農業委員会長
- ・認定新規就農者
- ・JAこまち東成瀬支店長
- ・東成瀬村社会福祉協議会長
- ・東成瀬村消防団長
- ・東成瀬村交通指導隊長
- ・東成瀬村防犯指導隊長
- ・東成瀬村環境保全審議会
- ・東成瀬村子ども・子育て会議 会長
- ・東成瀬村PTA連合会長
- ・東成瀬村教育委員会教育長職務代理者
- ・成瀬ダム振興事業協同組合理事長
- ・東成瀬村建設業協会(代理)
- ・田子内地域づくり推進委員会長
- ・岩井川コミュニティ推進委員会長
- ・椿川三部落委員会長

(2) 東成瀬村

- ・副村長
- ・事務局(企画課) 高橋参事
後藤課長補佐
土谷主査

4 内容

(1) 委員長挨拶

※開催にあたり、委員長から挨拶

(2) 第6次東成瀬村総合計画（基本計画）について

※事務局から第6次東成瀬村総合計画の基本計画について、総合計画素案及び資料1を使用し、基本目標ごとに説明し、都度質疑応答、意見交換を行う。

① 基本目標1：地域資源を活かした産業の村（産業振興・雇用）

【A 委員】

35 ページの事業承継支援事業について、「商工会等の関係事業者」という表現は、商工会会員のみに限らず幅広く連携するという意味か。

【事務局】

お見込みのとおりである。村内の商工会に限らず、必要に応じて多様な団体と連携する意図で「等」としている。

【B 委員】

若い世代（小中学生）へ農業の魅力を発信することが重要である。子供たちへの啓発も考えていくべきだ。何か計画内に盛り込むことができないか。

【事務局】

今後、具体的な施策を検討してく中で、ご発言いただいた内容を加味して参りたい。

【C 委員】

6次産業化や組織化の支援において、専門のアドバイザーなどのサポーターを設ける計画はあるか。

【事務局】

村独自のアドバイザー設置はないが、県の専門員や制度等を活用しながら、意欲ある方への個別相談対応を行う。

【D 委員】

林業について、伐採時期を迎えても所有者不明で適正な管理がされていない。なるべく早く対応しないと、今後益々所有者がわからなくなるのではないか。

【事務局】

管理をするにも林道等が整備されておらず、入っていけない場所もある。所有者に対する意向調査を実施し適正な管理を進めていく。

【E 委員】

林業に携わってきたが、路網（林道）の整備が最優先課題である。伐採しても搬出ルートがない。次期計画の具体的な事業実施の際はある程度こうした内容を検討いただきたい。

【A委員】

事業承継の目標値が「1件」とあるが、商工会の感覚ではもっと潜在的なニーズがある。目標値の考え方はどうか。

【事務局】

構築したマッチングサイト経由の成立件数として設定したが、実態に合わせて目標値を再検討したい。必要な場合、担当課より商工会と協議させていただく。

② 基本目標2：誰もが安心して暮らせる村（安全安心・生活環境）

【E委員】

消防団員については、入団者が減少、退団希望者を引き留めている現状。現在の「3分団」体制を「2分団制」へ再編を予定している。

【F委員】

免許返納者向けの「移送支援事業」は非常に評判が良い。高齢者の買い物や通院の足を確保するため、継続・強化を強く求める。

【事務局】

公共交通に関しては、新たな交通ネットワークの構築を検討しており、免許返納者も利用しやすい仕組みづくりを進める。移送支援については、基本目標4で説明する。

【G委員】

防犯に関して、ハード的な整備は時間もかかるため、防犯指導隊としては近隣住民がコミュニケーションを図り、防犯意識の高揚に努めている。

【H委員】

ゴミの減量化について、リサイクルステーションの設置や分別の周知を徹底すべきだ。

【I委員】

簡易水道の大規模なインフラ整備は終了したが、道路の老朽化は全村で見られる。限られた財源の中で、国・県の予算を確保し進めてもらいたい。技術力のある職員の育成も必要である。

除雪体制についても、村でオベ確保に苦慮していることは理解している。除雪作業を受託する事業者としては、直前になってからの相談ではなく、年間を通じた連携体制を構築してもらいたい。

【J委員】

有害鳥獣対策として、集落と山の間「緩衝帯」整備について、村が主導して強力的に指導・実施してほしい。

③ 基本目標 3：人と文化が共に育つ村（教育文化・生涯学習）

【D委員】

令和 12 年度には新入生が 2 名になる予測もあり、義務教育学校化も含めた教育環境のあり方を慎重に議論していく必要がある。

【K委員】

児童生徒数の減少は避けられないが、サービスの低下につながらないように、当局と保護者がしっかりと話し合っていきたい。

④ 基本目標 4：誰もが笑顔で健やかに暮らせる村（子育て・健康福祉）

【F委員】

住民一人ひとりの困りごとに寄り添うボランティア活動や、移送支援のような住民が喜ぶ事業を大切にしてほしい。

【L委員】

人口減少を見据え、福祉事業もコンパクトかつ全世代型へと見直していく時期に来ている。ただし、縮小することによってどこかに影響を与える可能性があることを理解しなければいけない。

⑤ 基本目標 5：賑わいとつながりがあふれる村（移住定住・観光交流）

【M委員】

スキー場施設の存続は村の重要課題である。インバウンド対応には多言語化だけでなく十分な予算と準備が必要だ。また、お土産品開発では在庫リスクの管理も検討すべきである。成瀬ダムを活かした観光振興は、現在協議を行っている組織の意見を反映して進めるべきである。

【事務局】

スキー場は継続を前提としつつ、収支の厳しい宿泊施設（ホテルブラン）を中心に再編を検討する。

【A委員】

インバウンド対応として、キャッシュレス決済の普及促進についても計画に盛り込んでほしい。

⑥ 基本目標 6：村民と行政が共に創る村（住民共創・行財政）

【N委員】

以前あったコミュニティセンターが使えなくなり、集落単独の集会場がない。地域活動維持のため、場所の確保を検討してほしい。

【J 委員】

コロナ後、地域イベントが減少しているが、女性たちの「コーヒーサロン」のような新しい活動を支援してほしい。

(3) 東成瀬村過疎地域持続的発展計画について

※事務局から東成瀬村過疎地域持続的発展計画について資料2、3を使用して説明。

【F 委員】

鹿児島から移住した養蜂家夫婦が成瀬ダムにインスピレーションを受け、ハチミツを使った菓子のお土産を考案している。こうした民間の活力を村の発展に活かしてほしい。

【事務局】

非常に魅力ある話である。今後、個別計画や総合戦略の策定において、こうした提案を共有していきたい。

(4) その他

※本日の意見を取りまとめるほか、パブリックコメントを実施する旨を共有。

※上記の2点を踏まえ3月の定例議会へ最終案を提出することを連絡。

※令和8年度は地方版総合戦略の策定を予定している旨を共有。